

2025 年 9 月 25 日

順天堂大学

学長 代田 浩之 殿

順天堂大学 外部評価委員会

2025 年度 順天堂大学外部評価委員会 評価報告書

1. 外部評価委員会評価報告書の目的

順天堂大学は、『内部質保証に関する方針』、『順天堂大学内部質保証に関する規程』及び『順天堂大学自己点検・評価に関する規程』に基づき、内部質保証の推進に必要な自己点検・評価を、毎年度、全学的に実施している。

2025 年度外部評価委員会は、順天堂大学学長から、2024 年度を対象とした自己点検・評価項目のうち、後述する 4 つのテーマについて、評価依頼を受けた。本委員会は、『順天堂大学外部評価委員会規程』に基づき、これら 4 つのテーマに係る自己点検・評価の客観性及び妥当性並びに内部質保証の有効性に関する評価を行ったので、その評価結果を以下のとおり取りまとめた。

2. 評価対象・評価方法

評価対象は、以下の 4 つのテーマであり、順天堂大学から提出された『2025(令和 7)年度 順天堂大学 外部評価委員会 評価依頼事項』及びその根拠資料並びに委員会当日(令和 7 年 9 月 5 日)の質疑応答に基づいて、客観性・妥当性・有効性の観点から評価を行った。

＜評価依頼のあったテーマ＞

- (1) 教育活動に関する内部質保証の取組状況
- (2) 教育課程編成の取組状況
- (3) 学生受け入れの取組状況
- (4) 社会連携・社会貢献（地域連携・自治体連携）の取組状況

3. 各テーマに対する評価

(1) 教育活動に関する内部質保証の取組状況

<概評>

内部質保証体制は、方針・規程で定められた内容を体現できている。内部質保証の推進に必要な自己点検・評価は、毎年度、自己点検・評価運営委員会及び同部門委員会において実施され、内部質保証推進委員会及び大学協議会による検証を経て、課題・問題点の改善や更なる教育の質向上に向けた取組が図られている。

議事録や会議資料により経緯を確認し、内部質保証に係る各会議が定期的に行われ、審議・検証が適切に行われていることを確認した。前回の当委員会による評価以降、内部質保証推進委員会が中心となり、学部横断的な教育課題に対応するための新たな全学組織の設置やFD/SDの実施体制の強化、大学院CP・APの見直し、PDCAを意識した自己点検・評価方法の見直し、アセスメント・プランの再検証、質保証体制の見直しなど精力的に取り組んでいる。

以上のことから、内部質保証に関する取組は適切であり、組織的・計画的に課題が検討され、実効性のある改善が図られていると評価することができる。

<提言>

- ・現在進めているアセスメント・プランの見直しに関して、より体系的な学修成果の可視化及び評価に繋がるよう、各評価手法とコンピテンシーとの関連性を明確にすることが望まれる。
- ・教学IRデータの収集と分析を促進し、教育改善に向けた利活用の実践が望まれる。

<継続事項・今後改善が期待される事項>

- ・学生アンケートの回収率の更なる向上に取り組むことが期待される。
- ・自己点検・評価の結果明らかになった課題・問題に対する改善が着実に図られるよう、委員会で改善策の進捗管理や必要な支援に取り組むことが期待される。

(2) 教育課程編成の取組状況

<概評>

ディプロマ・ポリシーは人材養成目標、学修成果、到達目標について把握できるよう記載され、各学部・研究科のカリキュラムでは、ディプロマ・ポリシーに示した学修成果を効果的に身に付けられるよう、学生の学習時間の確保、各シラバスにおける学修到達目標の明確化、高大接続教育、段階的な専門性の修得、学生の社会的・職業的自立に向けた教育などに配慮して編成が行われていることを確認した。数理・データサイエンス・AI教育や医療系学部における多職種連携教育など学部横断的な教育についても、時代の要請を踏まえた実践を行っている。

教育課程の編成に係る課題・問題点については、自己点検・評価や各学部・研究科のカリキュラム評価活動による検証のほか、FD/SD活動を通じて改善に取り組んでい

る。FD/SD 活動については、全学的な実施方針・実施要領を新たに整備し、教育・学生支援機構が中心となり年間計画に基づいて活動を展開している。

以上のことから、教育課程編成に係る取組は適切であり、組織的・計画的に課題が検討され、実効性のある改善が図られていると評価することができる。

<提言>

- ・FD/SD の計画的な実施とともに、講座単位又は教員単位の出席状況を把握し、そうした情報を活用して受講率の向上を図ることが望まれる。

<継続事項・今後改善が期待される事項>

- ・3つのポリシーについて、引き続き学修者視点に立った分かりやすい記載・表示に努めることが期待される。

(3) 学生受け入れの取組状況

<概評>

大学全体に全学入試委員会・大学院入試委員会、各学部・研究科に入試委員会、入学者選抜委員会、入試検証委員会を設置し、各委員会が有機的に機能して、入学者選抜の公正な実施が図られている。合否判定で使用する選考資料には受験者の属性情報を記載せず、受験者の成績から合否判定基準に従って合否判定を行っていること、親族に受験者がいる教職員は入試運営に関与させないこと、希望する学生に対して入学試験の成績を開示することなどにより、透明性を確保し公正な選考に努めている。また、入試の適切性に関しては、各学部・研究科及び全学の委員会において、チェックリストに基づいた検証が行われていることを確認した。内部質保証推進委員会においても、全学的な視点での検証が行われている。

学生募集に関しては、大学ホームページや各種広報媒体に情報を掲載するだけでなく、進学説明会や高校訪問・出張授業、キャンパス見学会など様々な方策を通じて効果的に情報を発信している。また、少子化や国際化といった社会環境の変化を踏まえた選抜方式・方法の見直しを図っているほか、外国人留学生や障がいのある学生など多様な学生に対する受験上の配慮・入学後の修学支援についても、全学組織と学部・研究科が連携して組織的な対応が進められている。

以上のことから、学生受け入れに関する取組は適切であり、組織的に課題が検討され、実効性のある改善が図られていると評価することができる。

<継続事項・今後改善が期待される事項>

- ・大学教育の魅力が受験生により効果的に伝わるよう、高校との連携・意見交換なども活用しながら、学生募集活動の更なる充実に取り組んで頂きたい。

(4) 社会連携・社会貢献（地域連携・自治体連携）の取組状況

<概評>

社会連携・社会貢献に関する全学的な方針を定め、地域連携・自治体連携に関しては社会連携推進室が中心となり、学部・研究科や附属病院と連携して活動を推進する体制が構築されている。各キャンパスを拠点とした周辺自治体との連携事業や高大連携を活用した教育機会の提供（STEAM 教育の提供等）、災害発生時における医療支援や健康・スポーツ分野の支援など大学の特色・強みを活かした連携活動が展開されていることを確認した。

今後の課題として、キャンパス・附属病院毎の独自事業だけでなく複数部門の連携による包括的な連携事業の展開の必要性やニーズの掘り起こしなどを挙げており、社会連携推進室では学部と附属病院の連携による事業展開の検討や連携協定を結ぶ自治体との連絡協議の場を設け事業の検証・見直しを図るなど、改善に取り組んでいる。

以上のことから、地域連携・自治体連携に関する取組は適切であり、組織的に課題が検討され、改善が図られていると評価することができる。

<継続事項・今後改善が期待される事項>

- ・社会連携・社会貢献は学生の学びの場としても重要であり、学生が参画する取組が広がることも期待したい。また、こうした活動の推進には、卒業生とのエンゲージを深めることも有効であり、引き続き検討を進めて頂きたい。

4. まとめ

2025 年度外部評価委員会は、2024 年度を対象とした自己点検・評価活動に基づいて、上記 4 つのテーマについて評価を行った。それぞれのテーマにおいて、学長の主導の下、組織的・計画的に各部門の活動を検証し課題・問題点の改善に精力的に取り組んでおり、その対応は適切・妥当であったと評価できる。順天堂大学では、毎年度、全学的な自己点検・評価が実施され、その結果をもとに内部質保証推進委員会及び大学協議会による検証を経て改善活動を行う仕組みが構築されていることから、この仕組みをしっかり機能させ、教育研究活動等の更なる改善・質の向上に取り組んで頂きたい。また、第三者の視点で行う評価についても、順天堂大学の取り組みの妥当性・適切性を客観的に評価し透明性を確保していくための重要なプロセスの一つであることから、定期的かつ継続的に実施していくべきであると考えます。

さらなる課題解決に向けて、質保証システムを有機的に機能させ、組織的・計画的に改善活動を遂行することを期待する。

以 上

2025 年度 順天堂大学外部評価委員会 委員

所属	役職	氏名
学校法人長聖	理事長	○ イチカワドイル 徳恵
東海大学体育学部	特任教授	勝田 隆
丸善雄松堂(株)	支社長	井上 賢一
筑波大学医学医療系地域医療教育学	教授	前野 哲博

※委員長：○印